

研究課題名	【Web 会議番号 2019_06】 家塵中の鶏卵抗原と鶏卵アレルギー発症の関連の解明
フリガナ	コジマ レイジ
代表者名	小島 令嗣
所属機関（機関名） （役職名）	山梨大学大学院 総合研究部医学域 社会医学講座 助教
本助成金による発表論文，学会発表	未

研究結果要約

近年、食物アレルギーの発症に関して二重抗原曝露仮説が発表され、「食物抗原の経皮感作は食物アレルギー発症につながる」可能性がある。本研究は家塵中鶏卵抗原量の予測因子を明らかにし、また家塵中鶏卵抗原量が鶏卵アレルギーの発症と関連しているかを明らかにすることを目的とする。山梨県のエコチル調査の6歳時詳細調査に参加する児を対象とし、屋内の清掃頻度や鶏卵摂取頻度に関する質問票調査を実施した。さらに2週間の家塵中の鶏卵抗原をELISA法で測定し、家塵中の鶏卵抗原量の予測式を作成した。2020年4月現在、102名から同意が得られ、その内98名から家塵の回収し、87名に対しELISA法による鶏卵抗原量測定が完了した。総鶏卵抗原量(μg)の中央値は、1882.1(範囲10.1~31294.0)であった。87名の内、6歳現在も鶏卵アレルギーがある者は2名、過去に鶏卵アレルギーがあった者は11名であった。重回帰分析の結果、統計学的有意差はつかなかったものの、総鶏卵抗原量の予測要因として、卵摂取頻度と同居人数が関連している傾向がみられ、卵摂取頻度が多い場合や同居人数が多い場合に、総鶏卵抗原量が多い傾向がみられた。6歳児の詳細調査の完了(2020年10月)を待って最終的な鶏卵抗原量を予測するモデルを構築し、その予測式を用いて乳幼児期の家塵中の鶏卵抗原量を予測し、それが鶏卵アレルギーの発症と関連しているかを検証する予定である。